真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月12日

事務事業名	外国人児童生徒支援事業	担当課・係	教育委員会　学校教育課　教育政策係
政策名　No	1　「人づくり」～豊かなこころアップ！～	関連する SDGs･DX	
施策名　No	3　国際化に対応した教育		

成果指標	名　称	初年度からの実績値の比較						目標値
		単　位	R7	R8	R9	R10	R11	R11
	外国人の親子向け高校進学ガイダンス参加者	人	10					
	日本語初期指導実施生徒数	人	10					

事業内容

①日本語指導助手派遣
　日本語教室設置校８校（小学校5校・中学校3校）における通常授業のほか、必要に応じて市内小中学校へ派遣し、通訳や翻訳を行っている。
②外国人の親子向け高校進学ガイダンスを実施
　外国人生徒及びその保護者が、日本の高校受験の仕組みやかかる費用などについての理解を深めるため、母語による進学相談会を実施。
③日本語初期指導員の派遣
　日本に来て間もなく日本語を話せない外国人児童生徒が安心して真岡市の学校での生活を始められるようにするため、日本語初期指導員の派遣を実施。

前年度の課題（Check）

①学校現場では、外国人児童生徒の多国籍化・多言語化や来日後間もなく、日本語を用いたコミュニケーションをすることができない児童生徒への対応が課題となっている。
③初期指導員については、引き続き、すべての外国人児童生徒が一日でも早く学校生活が送れるよう、指導員の適正配置に努める必要がある。

7年度振り返り

【1】実績（Do）７年度に実施した事業
①日本語教室設置校８校（小学校5校・中学校3校）における通常授業のほか、必要に応じて市内小中学校へ日本語指導員を派遣を実施
　指導助手2名（スペイン語・ポルトガル語）
②外国人の親子向け進学ガイダンスを実施
　6月29日実施　参加者　10名
③日本語初期指導員の派遣
　来日間もない児童生徒への学校生活適応への支援及び学習の理解を高める支援を実施　　初期指導生徒　10名

【2】結果と課題（Check）
①②③外国人児童生徒の多国籍化・多言語化によりコミュニケーションをすることができない児童生徒への対応が多くなっている。
日本語初期指導員を適切に配置し、来日間もない外国人児童生徒が一日でも早く学校生活が送れるよう努める必要がある。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【3】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

(1) ただちに取り組むべきこと
②令和９年度県立高等学校入試が一部変更となるため、外国人生徒・保護者に向けてガイダンスにて丁寧な説明をしていく必要がある。

(2) 長期的な計画で検討すること
①日本語指導助手を市内小中学校の日本語教室に継続して配置するための人材の確保